**令和７年度内子町ビジネスプランコンテスト企画・運営委託業務**

**公募型プロポーザルの特定結果について**

令和７年９月１日

　標記の公募型プロポーザルについて令和７年８月29日に実施し、下記のとおり受託候補者を特定しましたので、公表します。

**１\_件名**：令和７年度内子町ビジネスプランコンテスト企画・運営委託業務

**２\_業務内容**：ビジネスプランコンテストを開催することで、内子町で起業したい人を募り、実際にビジネスができるよう支援することが最大の目的。起業家志向・地元志向の若者などの移住・定住につながるスキーム作りも業務に含めることとし、主に以下の業務を行う。

・10人以上の応募者を確保するよう、認知度の向上を目的とした業務を行う。

　　　　　　　・コンテストの入賞者や応募者が起業できるようにする仕組みづくりの提案

　　　　　　　・１次審査、最終審査を実施します。適正な審査及び講評・助言が行える審査員の選定。また最終審査時に起業について講演する講師等の選定。

　　　　　　　・１次審査通過者に対し、ビジネスプランのブラッシュアップや、最終審査のプレゼンテーションに向けての支援。

**３\_受託候補者**：株式会社中国四国博報堂愛媛支社

**４\_参考見積金額**：9,182,000円（消費税及び地方消費税を含む）

**５\_選考委員**：委員長　松村　暢彦（愛媛大学社会共創学部　学部長）

　　　　　　　 委員　山岡　　敦（内子町副町長）

　　　　　　　 委員　池田　央　（内子町商工会　会長）

　　　　　　　 委員　大西　啓介（内子まちづくり商店街協同組合　理事長）

　　　　　　　 委員　畑野　亮一（内子町観光協会　事務局長）

　　　　　　　 委員　上山　淳一（総務課長）

　　　　　　　 委員　二宮　大昌（企画情報課長）

　　　　　　　 委員　高山　重樹（町並・地域振興課長）

**６\_評価結果**：得点　72.13点／100点　（※参加事業者数は２社）

**７\_審査委員長講評**： ビジネスプランコンテストを企画するにあたっては、**地域とのマッチング**と**審査員・アドバイザーの構成**が極めて重要である。前者については、両提案とも地域のステークホルダーとのコミュニケーションを重視しており、よく練られていると感じた。一方、後者については、一次審査の段階で幅広い提案が集まることが予想されるため、ローカルビジネスを市場の中で見極め、磨き上げていく力が必要となる。大学教員は多様な事象から一般解を導く点に強みをもつが、ビジネスにおいては地域性に応じた「特殊解」を提示することが求められる。その意味で、受託事業者はローカルビジネスに精通した民間の専門家やファイナンスの専門家を含み、多様性と専門性の両面で一歩抜きん出ていた。さらに、受託事業者は今年度だけでなく、次年度以降のプラットフォーム構築や運営方針にも言及しており、支援体制についても現実性を感じさせる提案であった。

ただし、新型コロナウイルスの影響により、地域課題の解決を目指す事業であっても現地に足を運ぶ機会が減少している印象がある。冒頭で述べたように地域とのマッチングは極めて重要であるため、受託事業者には地域のステークホルダーとの信頼関係を築き、参加者が安心して事業に取り組めるよう、内子町に繰り返し来訪し、多くの方々と積極的にコミュニケーションを重ねていただきたい。

内子町の将来にとっては、地域課題をビジネスを通じて解決しようとする高い志と能力をもった人材が、このビジネスプランコンテストにアクセスできるかどうかが重要である。その点を十分に意識し、受託事業者には取り組んでいただきたい。

以上、内子町のさらなる発展を願うとともに、受託事業者への大きな期待を込めて、本講評とする。